



～養豚しようかな？
から～



養豚経営：燕市大船渡 中条 健氏

私が就農して、六年が経とうとしていますが、未だにバタバタした落ち着かない毎日を送っています。

我が家は養豚と稲作の複合経営農家なので、高校卒業後すぐに就農しようと思ったのですが、巻に県立の農業大学校があると知って進学しました。農業大学校時代は、友人と畜産科の頼れる先生方のお陰で、楽しい学園生活を送ることができました。今でも、先生方には、色々な相談に乗ってもらい、良きアドバイスをいただいております。

卒業時には先生方の勧めもあり、アメリカ農業研修に参加させていただきました。ホームステイ先は、イノリ州にある「ギルト・エッジ・ファーム」にお世話になりました。ここは、母豚千七百頭の一貫経営で一部「スリーサイト・システム」の農場でした。ここの大規模養豚場での飼養管理方法や経営戦略等を学び、ただ驚くことが多々ありました。そして、生活習慣や言葉の違う場所でカルチャーショックを受けながら、2年間貴重な時を無事過ごせたのも、ホストファミリーやそこで働く人々のお陰でした。今春、全農の広報に私が滞在した農場の紹介記事が載っており、懐かしさを感じながら読ませさせていただき胸に込み上げるものがありました。

さて、我が家の養豚経営の取組みですが、一～二年いろいろな病気などの問題に悩まされてきました。試しては、「何でだろう？」と思う日々が続いてきましたが、簡易離乳施設の導入や家畜保健衛生所の先生方の指導の下、ようやく安定に向いはじめております。これからは、県内の優秀な養豚家の方々の成績に少しでも近づくことが出来る様努力したいと思っております。「豚だけにトントン拍子で成長して行きたいものです。」

TOPICS

防暑対策について

梅雨明けがまもなくです。生産性、繁殖性を落とさないように6月下旬から夜温にあわせて過度の送風に注意しながら防暑対策を実施しましょう。

1. 畜舎気温を下げる

- (1) 畜舎内外(畜舎周囲の舗装・通路・屋根等)に散水する。また、細霧システムも有効。(牛は湿度の上昇を嫌うので牛体に直接噴霧)
- (2) カーテン・窓・扉を全開にし、草むらは刈り払い通風をよくする。
- (3) 昼夜、大型ファン・送風ダクト・扇風機等で強制送風する。
- (4) 西陽が差し込む所に寒冷紗を設置する。
- (5) 屋根等に反射率の高い白ペンキ等を塗る。

2. 家畜の体温を下げる

- (1) 畜体に散水ホース等の散水口を細霧にしてこまめに散水する。(ただし、送風しないと高温・高湿度状態となるので注意すること。)
- (2) ドリップクーリングにより、繋ぎ飼いの牛及びストールの豚の頸部に点滴する。
- (3) とくに暑さが厳しい場合は、朝の一般管理後に体の端部から洗浄する。
- (4) 牛の場合、毛刈りも効果がある。

3. 飲水の確保・確認

- (1) 朝・夕に飲水が確保されているかウォーターカップ等の洗浄を兼ねて確認する。
- (2) 配管の中の水温が上昇している場合、通水する等により新鮮な冷水を飲ませる。
- (3) 豚のウエットフィーディングでは、水量調節バルブを絞り過ぎないこと。

4. 飼料摂取量を高める工夫をすること

- (1) 成畜の飼料給与は朝・晩の涼しい時期に行う。
- (2) カビた飼料・品質の悪い飼料は避け、消化の良い飼料及び粗飼料を給与する。
- (3) 給与順序の検討や多回給与システムの導入により給与回数を増やす。

5. 高温時の受胎率向上策を実施する。

- (1) 涼しい場所に繋ぎ、畜体を冷水で拭き取る等特別な扱いをする。
- (2) ビタミンA D E及び重炭酸ナトリウム等のバッファーを飼料に添加する。
- (3) 牛の場合、1番草のラップサイレージ等βカロチン入りの良質粗飼料等を給与する。